

福井市教委は、新型コロナウイルスの感染防止のため、会話を控えるよう求めている給食の時間を楽しんでもらおうと第2弾となるDVDを作成し、各小中学校に配布した。市中部の街並みの移り変わりや収蔵品の紹介、ボランティアの語り部による歴史紹介などがある。

市教委が作成した新型コロナウイルス対策ガイドラインで、給食の際、対面やグループで食べたり会話を控えたりするよう求めている。

市保健給食課は、5月中旬から市役所の各課に給食の時間に流すDVDの内容を募集。第1弾として21本を作成し、既に市内の小中学校に配布している。その後各課から次々と寄せられたため今回、第2弾を作成した。第2弾は、市公園課の城下町から近代都市への移り変わりの解説や市美術館が収蔵する彫刻作品の紹介など計27本で、3

市教委が作成したDVDを見ながら給食を食べる児童＝2日、福井市木田小



給食の時間 楽しく郷土学習

市教委DVD 街並み変遷など紹介

9分程度の内容。市歴史ボランティア「語り部」による福井県の花、水仙や疫病をはらうとの言い伝えがある妖怪「アマビエ」を紹介する内容もある。

同市木田小では2日、市宣伝隊長の「朝倉ゆめまる」のプロフィールや朝倉ゆめまるが福井のグルメを紹介するDVDを流した。児童は給食を味わいながら、DVDを見て笑顔を見せていた。野坂聡吾さん(5年)は「みんなとおしゃべりをして給食を食べることはできないけれど、DVDでいろんなことを知ることができるので楽しい」と話していた。

特別編として市民ボランティアによる越前市出身の絵本作家、加古里子さんの絵本の読み聞かせを収録したDVDも配布している。

同課は「給食の時間以外でも活用して、福井のことをさらに知って、愛着を深めてもらえれば」と話している。(菅野佑斗)